

## 和歌山県林業試験場の最新情報

# 「やまびこ通信」



### 平成30年度の研究が始まりました。

本年4月から当試験場のスタッフが少し入れ替わり、本場14名と中辺路試験地1名の体制により、新たな気持ちでスタートしました。皆様、何卒よろしくお願い申し上げます。

場内には当場に加えて、「農林大学校林業研修部」と「わかやま林業労働力確保支援センター」の2機関が設置されていますので、担い手研修等がある日は職員と研修生の車で、広い駐車場がさながら中古車の展示場状態となり、場内全体に活気が溢れています。



さて、本年度の当場の重点項目は昨年度に引き続き、「低コスト林業推進技術」、「健全な森林づくり技術」、「紀州材の需要拡大のための利用・加工技術」、「特用林産物の安定生産技術」の4項目を掲げています。

本格的な利用期にある県内の森林資源を有効に活用して、林業の振興を推進することが大きな課題である中で、その課題解決に求められる技術開発や試験研究に取り組むことが当場の役割と考えています。そのためにも、森林・林業関係者や行政側のニーズを的確に把握するとともに、私たち職員が意識改革・行動改革、そして資質の向上に努めなければならないと考えます。

当場が、県民の皆さんに親しみやすく、期待に応えることができる試験研究機関となるよう努めて参りますので、皆様方の一層のご指導ご支援をお願いいたします。

今回発行しました「やまびこ通信」は本年度最初となりますので、現在取り組んでいる試験研究業務やスタッフ等を紹介させていただきます。

【 場長 田上 耕司 】

### ★平成30年度 農林水産業競争力アップ技術 開発事業の新規2課題がスタート！

#### ■県産未利用広葉樹（シイ）の建築資材等への 利用拡大のための技術開発（H30～32）

シイは県内に豊富な資源量がありながら用材としてはほとんど利用されておりません。このため、大径木化が進行したシイの木が増加し、放置するとナラ枯れの原因となるカシノナガキクイムシの被害拡大が懸念されます。シイの硬い材質はフローリングやデッキなどに適していますが、乾燥が難しいことから現状では薪やチップ等への利用に留まっています。

そこで、用材としてのシイの利用拡大に繋げるべく、シイの乾燥技術の確立を目的とした乾燥試験、商品化に向けた材質調査、印象評価調査を行います。



シイの資源状況



シイ材



乾燥による損傷状況

#### ■サカキを加害する新種ヨコバイの防除体系の 確立（H30～32）

近年、サカキの葉にオビヒメヨコバイ族の一種（以下、ヨコバイ）の吸汁による白点被害が県全域に発生。平成28年より発生消長等を調査し、概ね生態等が解明されたため、この成果を基に、今後は、栽培サカキ林を主とした薬剤によるヨコバイの防除技術の確立を図ります。

研究内容は、ヨコバイに薬剤の抵抗性が発生しない様に、薬剤メーカーや高知県と連携し、複数の農薬登録を目指します。

また、防除適期を解明し、ヨコバイの識別方法等をまとめ、普及に向けた防除指針の策定に取り組めます。

以上により、品質・量ともに国産サカキ日本一の産地力の維持を図ります。



無数の白点被害が生じたサカキ



オビヒメヨコバイ族の一種

## H30 研究スタッフの紹介

### ■経営環境部

岩畑 忠司：部長  
日下 昭宏：獣害対策（捕獲）、林業機械  
法眼 利幸：病虫獣害対策  
竹内 隆介：育種、種苗生産  
濱田 さつき：造林・育林  
（山下 由美子：育休中）  
＜中辺路試験地＞  
城戸 杉生：種苗生産



マノザクラ花

### 【トピックス】



優良候補木

（早咲きで花が美しい等）

新種クマノザクラの増殖技術開発に取り組みます。花色など優良な形質を持つ個体を探し、効率的な増やし方を研究します。多様性を重視し、各地の優良個体を探索しています。

### ■木材利用部

東山 貢：副場長（木材利用部長）  
池田 丈彦：庶務担当 林業普及指導員  
岡本 憲治：木材加工・保存・乾燥  
濱口 隆章：木材強度・木質バイオマス

### 【トピックス】

「快適な紀州材内装材の提案に向けた印象評価調査」に関するアンケート調査を昨年度の紀州材家づくりフェア会場等県内外6箇所において実施し、1,268件の回答を頂きました。

今回の調査結果を分析し、分析結果をスギ材の内装材利用拡大に活用します。



印象評価調査状況

### ■特用林産部

坂口 和昭：部長  
坂本 淳：花木の栽培管理、紀州備長炭  
杉本 小夜：山菜、きのこ、木の实  
中谷 俊彦：研究業務の補助

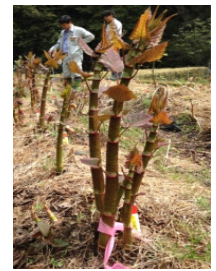
### 【トピックス】

サカキの新芽・新梢が枯れる被害や新葉に穴が開く穿孔被害が県内で新たに発生し、増加の傾向にあるため、今年度から基礎研究で被害実態の調査等を行っていきます。



枝枯れ症状（龍神村・広川町他）

イタドリの優良系統を選抜し、組織培養により大量増殖を行い、栽培者に苗を供給する技術を開発中です。



イタドリ優良系統株の組織培養

### ～ 中辺路試験地だより ～



### 少花粉スギ品種の増殖を行っています！

県内の少花粉スギ品種の苗木要望に corres ponding するため、平成29年度花粉症対策基盤整備事業により、中辺路試験地内に新たな採穂園(0.7ha)を造成しました。ここには15品種3,000本を植栽します。すでに一部植栽していますが、本年度は、残りの2,000本を植えるため、現在、ガラスハウス内で母樹の挿し木を行っています。各品種とも順調に生育しています。（城戸）

\*\*\*\*\*

### 編集・発行 和歌山県林業試験場

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬1504-1

TEL：0739-47-2468 FAX：0739-47-4116

\*\*\*\*\*

※『やまびこ通信』は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。